



〈シンボルマーク〉



〈校章〉

宮城県迫桜高等学校同窓会

迫桜同窓会報

編集・発行 迫桜高等学校同窓会広報部会 発行日 平成28年7月5日
〒989-5502 宮城県栗原市若柳字川南戸ノ西184 TEL0228-35-1818
迫桜高校ホームページアドレス <http://www.hakuou.myswan.ne.jp/>

ぜひアクセスを!!

「当番制試行の継続を」

同窓会長 菅原 孝

(若高 昭和三十四年卒 旧姓門馬)



同窓会員の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より同窓会の事業、運営にあたりご支援、ご協力をいただき心より感謝申し上げます。

昨年は迫桜高等学校創立十五周年の節目に当たり、同窓会総会には同窓生である仙台在住のソプラノ歌手姉齒けい子さんをお招きし、開催致しました。彼女の素晴らしい歌唱に参加された多くの会員の



総会

姉齒けい子さん



東京支部総会

仙台支部総会

皆様が感動し、惜しめない拍手をおくりました。参加者も例年になく多く、和気あいあいの懇親会となりました。本会は会則第三条にあるとおり会員の相互の親睦と交友を深めることが第一の目的であり、懇親会に多くの会員が参加されるのが私たちの願いであります。今年の総会にも仲間を誘って参加されますようお願いいたします。

また、総会の当番制試行ということで、若柳支部の役員が中心となり、次年還暦や四十二歳の歳祝いを迎える方々に声掛けをし、何回か会合を持ちました。お陰さまで総会には還暦を迎える多くの方々の参加が見られ、この試行を

今年も継続することにいたしました。該当の方々よろしくお願いいたします。

二月二十九日に同窓会入会式を行い一九七名が入会いたしました。迫桜高卒の同窓生も三千名を超えましたが、第一回卒業生がまだ三十代であり、彼らの成長を温かく見守りながら、しばらくの間、栗原、若高の同窓生が会を支えていかなければなりません。

心配なことはここ二、三年定数割れが生じていることです。生徒数の減少、登米総合産業高校の誕生の影響も考えられますが、我々同窓会としても、このような変化に適切に対応できるように学校との連携を強くしていきたいと思っております。最後になりましたが同窓会会員の皆様のますますのご発展を祈念し、あいさついたします。

「募集定員充足プロジェクト」

校長 三浦 孝 洋



迫桜高校同窓会の皆様方には、日頃から本校の教育活動にご理解、ご協力を賜り、心から深く感謝申し上げます。

本校は、地域の大きな期待を担い、栗原農業高校と若柳高校の歴史を受け継いで再編・統合され、今年で創立から十六年目を迎えました。

栗原農業高校卒業生と若柳高校卒業生、そして迫桜高校卒業生の母校に対する熱い思いが、本校の歴史と伝統となり光り輝いており、これからも後輩たちに確実に受け継がれていくものと信じています。

さて、今年度の全校生徒数は、五百四十二名で、栗原市内中学校出身の生徒が五十五%、登米市や花泉を中心とした栗原市以外の中学校出身の生徒が四十五%であり、栗原市以外からも生徒を引きつけている魅力あふれる学校です。

しかし、ここ数年は、入学を希望する生徒数が募集定員に満たない状況になってしまい、定員充足率は九十・三%と年々低下傾向にあります。学習面はもちろん、部活動も多くの部が地区大会で優勝し、県大会や東北大会、全国大会に出場して活躍していて、就職・進学もほぼ全員が自分の希望を達成して卒業している本校ではあります。少子化の大きな波の中で苦戦しているという状況です。

その問題を解決すべく、「募集定員充足プロジェクト」なる一連の取り組みのもと、来年度入学生は二百名の募集定員を充足すべく、様々な対策に取り組んでいます。

普通科指向が強いことに対応した進学指導の充実、部活動の活性化、地域での奉仕活動や中学校へ出向いての出前授業、小学生を招いての体験活動など、これまでに以上に「魅力ある学校」「地域に愛される学校」にして参ります。同窓生の皆様方の母校迫桜高等学校への変わらぬご支援とご鞭撻をお願いいたします。

同窓会活動への協賛金のお願ひ

ゆうちょ銀行口座記号番号 02260-1-113366
□座名称(漢字) 宮城県迫桜高等学校同窓会
□座名称(カナ) ミヤギケンハクオウコウトウガッコウドウソウカイ
※一口1,000円です。何口でも結構です。
※ご芳名と卒業年をご記入ください。

平成28年度 同窓会総会

期日 8月6日(土) 14:00~ 場所 若柳ドリーム・パル
受付13:30~ 懇親会費 ¥3,000

※会員券は支部長からお求め願ひます。●今年のアトラクションは、迫桜高校合唱部です。お楽しみに!! (不足の場合は当日券で願ひします。)



入学式



田植え



理科実習



支部総体



職場体験

支部だより



石越 支部長
二階堂 一 男
栗農 昭和35年卒
(登米市石越町在住)

『若い時の苦労は買ってでも』

これまでのご無沙汰を反省し、微力ながら支部長役を引き受ける事となりました。ご協力をよろしくお願い致します。

さて、迫桜高校の校名にもある迫川堤防の桜は今年も咲きほころびました。私の栗農卒業が昭和三十五年ですので、だいぶ前の事になります。当時校舎東側の迫川堤防の桜並木はそれは見事なもので、若柳大橋から新山神社までの約一疋は、桜の名所となっていました。花見の最盛期には、大勢の見物客でにぎわい、若柳音頭に謳われていたように「続く人並チヨイト綾となる」光景は今でもなつかしく思い出されます。それに比べ近年の若柳の情景を思うとさびしさを感じてしまいます。当時、その桜並木の土手のすぐ下に位置していたのが柔道場でした。

週間にはわたって行なわれる寒稽古は、柔道が必須科目となっている男子生徒全員が対象でした。(強制ではありませんでした)この寒稽古に三年間一日も休まず、しかも、一番畳を踏むべく、朝五時に起きて凍った未舗装道路を自転車、水たまりに出来た水をパリパリと裂きながら道場につき、前日の汗が凍った畳に上り乱取りをするのです。初めの十五分位は足の感覚がなくなるのですが、一時間もすると身体全体が暖かくなり寒さを忘れてしまいます。眠気と寒さに耐えて三年間続けた事が社会人となってから、どんなに寒い早朝からの仕事でも頑張る事が出来たものと感謝しています。

諺に若い時の苦労は買ってでもしろというのがあります。まさに的を得た言葉だと感じ入っています。これからの若い人達にも進んで「苦労」に挑戦して欲しいと願うものです。

同窓会石越支部は、役員体制を整え、生徒達や学校に一朝事ある時に即応出来る様努めて行く所存です。



油島 支部長
佐々木 俊 郎
栗農 昭和45年卒
(一関市花泉町在住)

『ま』同窓会報を読んで頂くために

数年前のある日、突然栗農の大先輩である某氏が私の職場支所長室においてになりました。お茶をお出し、あいさつと思っていたところに、開口一番「今日は「はい、分かりました」と言えはいい」と威厳に満ちた一言で話が始まりました。私には何事かと心中穏やかではありませんでしたが、



平成28年2月29日、第15回卒業生の同窓会入会式が、本校アリーナに於いて行われました。菅原孝会長より197名の入会が許可された後、会長より激励の言葉が述べられました。続いて3力年間の高校生活を振り返り、特模範的で顕著な活動をした5組菅原菜摘さん、3年3組佐々木春さん、3年4組千葉愛永さんに対して、迫桜賞(賞状と盾)が授与されました。更に、全卒業生に対して卒業記念品として、卒業証書ホルダーが贈呈され、最後に3年2組菅野響輔くんが新入会員を代表して誓いの言葉を述べました。

論すように話す言葉を聞いていました。皆さんお察しのとおり「支部長をやりなさい」との厳命だったのです。私は「はい分かりました」と返事をするしかありませんでした。このような決め方が良いのか悪いのかはわかりませんが、その時から私の迫桜高校同窓会油島支部長がスタートしたのでした。

平成十三年(2001)栗原農業高校と若柳高校が統合し、迫桜高校が誕生して十六年目を迎えました。この間二つの同窓会が一つになり、その同窓会、そして同窓会支部を理解しないまま、引き受けてしまったこと、大いに反省しています。

今、私の最大の責務は、できるだけ多くの会員に同窓会報を届ける事と考えています。しかし、近年個人情報管理がことさら厳しくなっており、以前のような会員名簿の作成が難しく、会員の存在情報すら十分に確保できない状況にあります。

こんな中で私は、油島の各集落(十集落内)から核となる先輩を見つけて出し、その方に両校卒業生の掘り起こし、情報収集をお願いし会員把握に着手しました。とにかく会員に同窓会報を届け、読んでもらいたいからです。さて、私事を少し書いてみます。

高校野球の審判委員をやっています。夏の高校野球選手権の県大会や、春季、秋季の東北大会も担当しました。今も迫桜高校を応援に一人石巻市民球場等に足を運び大声を出しています。今年も行くつもりです。練習試合等が必要があればお手伝いしますので、声をかけてください。



迫川会 会長
金野 勉
栗農 昭和34年卒
(仙台市泉区在住)

魅力ある組織づくりを目指して

同窓会々員の皆様にはご健勝で、それぞれの分野で活躍のことと心からお慶び申し上げます。さて、この度は「迫川会(はくせんかい)」を紹介できる機会をいただきましたこと会員一同感謝を申し上げます。

迫川会は、宮城県職員(退職者を含む。)で栗原農業高等学校(旧制を含む。)出身者及び本会の趣旨に賛同する者をもって組織し、会員相互の親睦と修養を図り、母校の発展に寄与することを目的として、昭和五十七年十一月に設立されました。主たる事業といたしまして、一つは、年一回の定時総会の開催。二つ目

は、会員の親睦と修養に関すること。三つ目は、母校との連絡を密にして母校発展の為の後援活動を行うこと。等です。また会員数は現在九十六名で、内訳は現職員十二名、退職者八十四名という今の逆ピラミッド現象が生じております。年令の差こそあれ世代間交流を図りながら一丸となって前述の事業を円滑に推進するため頑張っておるところであります。更には、大袈裟かもしれませんが県政発展の為、また地域のリーダーとして活躍できる人材育成の場として微力ながらも思っております。今後後輩が入庁されるでしょう。その際同窓の頼れる仲間の組織があることは、これ程心強いものはありません。私の経験からしても然りであり、このことから小さな組織ではありますが、実効ある活動を重ねね母校発展の一助となるよう努力して参ります。これからも迫桜高校並びに同窓会関係各位のご支援のもと歴史と伝統ある迫川会を一層魅力ある組織とするため活動して参ります。

最後に同窓会員皆様のご健勝と迫桜高校の益々のご発展を心からご祈念申し上げます。迫川会のご紹介並びにご挨拶いたします。



卒業式



モンゴル交流会



修学旅行



生徒会長選挙



迫桜祭

生涯現役

高橋 義典

(栗農 昭和四十九年三月卒 栗原市在住)



昭和四十六年四月、農家の長男として就農することに何の疑問も持たず、当然のこととして栗農に入学。山岳部での活動に夢中になりながらも、菊づくり、野菜づくりに興味を膨らませて三年間を過ごしました。栗農での三年間は受験とは無縁の生活ではありましたが、多くの仲間達と先生方のご指導のおかげで、農業の勉強、部活動、農業クラブ、生徒会活動と本当に充実した三年間でありました。

昭和四十九年四月、山形大学農学部園芸学科に入学。千葉県の農家に飛び込みでお願いして一ヶ月の菊づくり研修。蔬菜園芸学研究室で野菜、花づくりを目指して大学生を送りました。しかし、農業を取り巻く環境は厳しくなり、三年次の後半から教員を目指すことになりました。教員採用試験に向けて取り組んだ時間はわずか半年あまり。それでも試験に合格できたのは運が良かっただけのように思います。昭和五十三年四月、農

業教員として河南高校に赴任。昭和六十二年に上越教育大学大学院への内地留学を機に理科教員に。平成十二年、県教育委員会に異動となり、何故か理科の指導主事に。平成二十二年から二年間ではありましたが、迫桜高校で勤務させていただきま

した。そして今年三月、岩ヶ崎高校で三十八年間の教員生活を終えました。この間、生徒達とともに笑い、時には悩み、充実した日々を送ることができました。また、多くの先生方、大学関係者、地域の方々との出会い、支えていただきました。皆様

会員

近況

報告

第二の人生は農業しかありません。教育界とは全く異なりますが、これが私の人生の原点だと思っています。うまい野菜とはどんなものか、問い続けたいと思います。その答えが出るものかどうか分かりませんが、高校時代の担任高橋伸壽先生の言葉をいただき、「生

涯現役」で頑張ってみようと思っっています。め、友人と二人で仙台の予備校に通ったことを思い出します。当時、生物担当で野球部監督の佐藤正先生の勧めもあり東北福祉大学に進学しました。大学でも研究以上に野球に力を注ぎ、念願の全国大会出場を果たしました。大学卒業と同時に大学職員として採用され、事務システムの作成や学内ネットワークの構築を担当しながら兼任教員としてコンピュータ関係の授業も担当しました。同時に野球部のコーチとして佐々木主浩、矢野耀大、金本知憲、斎藤隆、和田一浩ら数多くの学生をプ

先生との出会いが 人生の岐路の第一歩に

千葉 幸喜

(若高 昭和五十一年三月卒 仙台市在住)



昭和五十一年三月、若柳高校を卒業しました。高校時代は毎日、勉学以上に課外活動に熱中していました。三年生の夏、甲子園県予選終了後に進路に不安を感じ、大学受験に向けた夏期講習を受講するた

在学中の経験が大きなき 自信になっています

菅原 大樹

(迫桜 平成十七年三月卒 登米市在住)



迫桜高校を卒業して十一年が過ぎ、二〇一二年に起業し、二〇一四年から母校で農業の非常勤講師として働いています。

在学中は、片道約十五キロを通いました。自転車で登校していたときは、農面道路での向かい風で前に進まず何度か遅刻したこともありました。

部活動はコンピュータ部に所属し、三年間「K

口野球界に送り出すことができました。現在も野球部副部長として携わっています。職員として仕事をしながら平成十四年に一念発起して大学院に通い、修了後は特任准教授として教壇に立ちながら、入学センターで学生募集を含め入試全般を担当しています。オープンキャンパスの開催をはじめ各高校での講演や説明会のほか、北は北海道から関東、南は沖縄県まで高校の進路指導部訪問や各会場での相談会に走り回っています。

現在、忙しい中にも充実した毎日を送っているのは、若柳高校時代の先生が私の進む道(進路)を親身になって考えお導きいただいたことに他なりません。まさしく私の好きな言葉「邂逅」です。また、高校卒業後もお付き合いさせていただいている素晴らしい先輩や同級生、そして後輩の皆さんのお蔭と心から感謝いたしております。最後に迫桜高校および迫桜高校同窓会のさらなるご発展をお祈りしながらペンを置きます。

直営店の店長などを経験の後、外資系広告代理店に転職し営業部や支店の情報システム管理などを行いました。3・11の震災後、「自分には何ができるのか?何がしたいのか?」という自問自答の後、人の想いをカタチにするような仕事をしたかと思えば、ちょうどその頃内閣府の「地域社会雇用創出事業(社会的企業支援基金)」の募集があり、事業計画を作成しプレゼンをしたところ採択され二〇一二年十二月二十五日に「一般社団法人Tree」を設立しました。事業内容は、農産物の生産・販売、デザイン受

託・六次産業化支援事業などです。社名と企業理念は、私の名前と一冊の絵本から決めました。シエル・シルヴァスタイン著書「大きな木」。一人の子供と大きな木のお話で「無償の愛」が描かれています。生徒と話しているのとやりたいことがあるが、それを実現するために何が必要なのか分からない人が多いと感じます。人は皆、想いを抱いています。今、担当している授業を通して「想いをカタチにすること」の大切さを伝え、進路達成してほしいと思っています。



